

# 山行報告

## ■伊勢三星・<sup>しらいさん</sup>白猪山

●日 程：10月13日(日)～14日(月・祝)

●参加者：L 砂川(延) SL 佐々木 阿部 泉 乙坂 黒本 笹木 徳本 春本 和田

●行動記録：

(13日) JR宝殿駅 8:30 発 一道の駅・茶倉 (12:30 着) 13:00 発～白猪山登頂 (15:10 着) 15:20 発～白猪山下山 (16:20 着) 16:30 発一リバーサイド茶倉 (18:00 着・泊)

(14日) リバーサイド茶倉 8:15 発一富士見ヶ原 (11:15 着) 11:30 発一波瀬駅 (12:40 着) 13:35 発一JR宝殿駅 (17:05 着)

### ◆亥年に白猪山

黒本

昔、白い猪が住んでいたという言い伝えがある白猪山に亥年に登ってきました。

前日は、各地で甚大な被害を出した台風 19 号の影響で伊勢地方も大雨となり、山・登山道の状況を心配しながら、曇り空の加古川を出発し、名阪国道の針 IC を降り、国道 368 号線を通り、道の駅茶倉にお昼過ぎに到着しました。この国道がとても狭く対向車が来たら避けようがない道で、これがほんとに国道(?)と思うような道でした。途中 2 回の対向車があり、ハラハラドキドキでした。お天気も大阪辺りで雨も降りだしてきていたのですが、奈良・三重の峠を越えるごとに良くなり、茶倉では晴天でした。この辺りは、お茶の産地らしく茶畑が広がっていました。

道の駅で昼食後、白猪山登山口へ。途中で日本棚田 100 選の「深野の棚田」があり、傾斜地に丸い天然石を積み上げた棚田が道路の左右に広がっていました。白猪山の中腹にある登山口の駐車場で準備をしていると「アサギマダラ」がヒラヒラと飛んできて、登山の前に幸先がいいなと思いました。

登り始めると急登で、リーダーに「ゆっくり登りましょう。」と言って頂き安心して登り始めました。杉林の中の登山道は、コンクリート舗装され、台風の影響で小枝・杉の葉・砂利が覆い少し荒れていましたが、倒木・土砂崩れ等はなく登れました。水量が増した沢沿いを歩き、不動滝も激しく流れ落ちていました。1 時間程ひたすら登った所に石室があり、少し休憩。しばらく歩くと 28 段の階段の先に石尊大権現が祀られたお社がありました。ここからは開けていて芝生が山頂まで続いて登った先に白い猪の絵の看板がありました。空は快晴で、麓の集落や周りの山々が見渡せ気持ち良かったです。櫛田川はくねくねと曲がって流れて、遠くに道の駅茶倉や赤いつり橋も見えました。帰りはピスト



ンで登って来た道を転ばないように足元に気をつけながら、転ぶ事無く無事に下山出来ました。

下山後は、道の駅飯高駅にある天然温泉へ。時間がなく、ゆっくりはできなかつたのですが、汗を流せたので気持ち良かったです。お宿への途中、稜線から出てくるきれいな満月が見えました。夕食は、会席料理で美味しかったです。食後は、そのまま懇談会となり、楽しい時間を過ごせました。

※「アサギマダラ」は、日本本土から香港・台湾・沖縄へ長距離移動する事が調査でわかっている「海を渡る蝶々」で、10～11月のフジバカマが咲く時期に飛来する。浅葱色(淡青緑色)で斑模様があり、ひらひらと飛んで、人をあまり恐れない。

## ◆伊勢三星・白猪山山のお伊勢巡り鳥岳、富士見が原巡る 春本

10月13日(日)前日の台風19号の接近で六甲山徳川道山行が中止になって、まだ関東甲信越東北と被害を受けている最中の山行で、コースの天気は回復すると見込んで出発となる。

予定では西名阪針ICから(R369、R368、R166)の計画コースが、ナビの案内が針ICから名張方面へ伊勢本街道に向かう道がかなりの山道で殆どセンターラインなし、距離優先だったのか無事に昼食の茶倉駅に着いて、白猪山登山口へ。

この白猪山は、昔白い猪の棲む山と伝わって、堀坂山・局ヶ岳と共に伊勢湾の船乗りから「伊勢の三星」と呼び航行の目印(やまだて)にされていました。

深野バス停から登山道までは茶畑の棚田で、かなりの急坂を車で移動はまるで千ヶ峰までの岩座神のような景色で、駐車場でストレッチして御在所平から石尊大権現目指す。

台風の爪あとで落ち葉や枝が有るものの、コンクリ舗装の登山道で道標も新しく地元の利用者の整備もよく、1kmほどの山道を、沢を渡ることなく右に瀬音左に滝と、きれいに枝打ちされた針葉樹のなかを快適に進み祠(ほこら)があるところで休憩する。

数段の階段を昇ると鳥居が有り石尊大権現、ここが頂上かと思いきや、あと400m余りの急登が頂上820mの三角点、途中は芝生の広場で山頂展望台は撤去され基礎だけ残っていた。青空の中眺望は素晴らしく増水した櫛田川の蛇行がよく見え茶畑や今夜の宿も明日のコースも見て取れて、来られて良かった良かった。

ふもとの深野地区は松阪牛発祥の地だとか、今夜の夕食を期待したのでした。

いたかの湯のある道の駅飯高駅に行き10種類ほどある温泉で癒して、リバーサイド茶倉へ向かい18時半ごろ到着。夕食はさしみやかにシュウマイで松阪牛は無かった。

10月14日(月、祝)天気が気になり5時すぎに起床、くもりで地面が濡れている。

宿から見える鳥岳の稜線がガスで見え隠れしていた、標高545mの低山ですが展望が素晴らしいらしく、そのまま宿から歩いてあまり整備されていない道を頂上まで2km余りと言う。

7時の朝食時に小雨が降りだして、会長が近所の散策にしようか思案していました。私は傘をさして夕べ電飾のあった吊り橋を渡り、増水した櫛田川や対岸の茶倉駅の展望台まで行って会長に電話をするとみんなで散策するからすぐ降りるようになり、3階のらせん階段を滑るのを気にしながら戻りました。



宿のおすすめコースを折り畳み傘で散策です、途中で舗装路が途切れ足元が濡れるので引き返した時に、メンバーのふくらはぎにヒルが、、宿の主人曰く15℃以下になれば活動しなくなるかと、スパッツをしたほうがいいのかも。

中央構造線粥見観測地とゆう場所に着きました、日本一の断層帯が岩の色の違いで解るとゆうので、そう言えば地形図で東海から紀伊半島を得て四国に繋がる層を思い浮かべました。南海大地震もこの断層が関係するのでは。取り越し苦労ならいいんですが。

次に粥見井尻遺跡を探すが茶畑の中をさ迷い、結局国道の陸橋下にありました。

1996年偶然ここで土偶が見つかったとの事、住居跡や壁画をイメージした狩の生活図を見て、獲物がいないときはどうするんだろう内臓脂肪に蓄えるのだろうか等と勝手に想像して、自分も最近メタボ気味なのでカルピスやめて甘酒にしようかな。

9時半茶倉駅で食べた餡きな粉餅の美味しかった事、本日2度目の展望台で集合写真して迫力の吊り橋を渡りリバーサイド茶倉のフジバカマ畑へアサギマダラとゆう珍しい蝶を観察、宿の主人からたどり着けなかった隧道の説明を聞く。

この支配人がいい方で説明が丁寧で、忘れ物を富士見ヶ原まで届けてくれたりととても親切な対応でした。みんなは何故か面白がっていた様な気がしたのは私だけ？

その富士見ヶ原は車で約15分の文字通り富士山が見えるとゆう場所でしたが今回は周りの山々だけでした、1月3日ごろの四日市や中京工業地帯の休みで冬の澄んだ空気の好条件の時限定かも知れませんが、台風一過で期待してましたけど。

それにつつじの株が多くあり、晩春の彩りがいいみたいでした、Pまでの歩道はチップが敷かれていたが濡れていたので慎重に10分ほど歩く、ワラビ殻も多かった。

お昼前になり雲がかかった烏岳を後に帰路になりました。

あまりお腹が空いていないという事で、道の駅飯高駅の姉妹店の波瀬駅まで1時間足らずで昼食となった、従業員少なくメニューが2種で食券を買おうとした所食べたかった松坂牛丼が会長の前で売り切れ、女性陣はセーフ。残った鹿肉カレー、ここは奈良県境手前で、三重県なのに、しかも遅いブツブツ、、味はまあまあか。

R166を針インターまで、途中高見山辺りのループ橋や長いトンネルを過ぎ奈良のひよしのさとマルシェの買い物で行き過ぎUターンと会長のサービスや、針テラス立ち寄りでメンバーはツアー旅行並みの大満足。

お疲れ様でした、特に会長には大変気を使っていただき心身ともに休養してください。

\*この度行った三重県は台風から後も2度ほど大雨があり、被害が出ないことを祈っています。

## ■由布岳・鶴見岳(九州の山と温泉を楽しむ)

- 日程 : 10月18日(金) ~ 21日(月)
- 参加者 : La 藤本 SLa 田中(重) 平石 山本(清) 森下  
Lb 木下 SLb 村上 乙坂 田中(美) 苦瓜  
Lc 赤木 SLc 安田 谷口 徳本 矢根

### ●行動記録 :

(18日) フェリー神戸港 19:50 発

(19日) フェリー大分港 7:20 着—正面登山口(9:25 着)9:50 発~合野越(10:45 着)10:50 発~マタエ(12:40 着)~西峰(13:25 着)13:30 発~東峰(15:05 着)15:10 発~合野越(16:45 着)16:50 発~正面登山口(17:30 着)—陽光荘泊



(20日) 別府高原駅(下)(9:00 着)9:20 発～火男火売神社(10:10 着)10:15 発～鶴見岳  
(12:25 着)13:00 発～別府高原駅(上)(13:15 着)ーフェリー大分港 19:15 発  
(21日) フェリー神戸港(6:35 着)

### ◆3度目で山頂に

山本(清)

さんふらわ～♪さんふらわ～♪神戸港 19時50分発。目が覚める頃に大分港へ。小雨のち曇りとの船内放送に快適な由布岳山行が出来そうでわくわくする。

#### 【由布岳】

正面登山口から、一面を笹に覆われた飯盛ヶ城の綺麗な風景を左手に眺めながら歩く。ワールドカップ大分大会の応援に来ているのかな。勢いよく下山してくる外国の人たちと「ハロー」



あいさつを交わす。いいことばだな。

歩き易い足下だがしだいに急登になり息があがる。ゆっくりとした歩調のおかげで何とかついて行けそうだ。度々出くわしたミミズ。陽光の加減なのか七色に光る20～30cmほどの体は不気味ではあるが奇妙なほどに美しい。ここはミミズにとっては最高の環境なのだろう。

合野越での休憩後しばらく行くと急登を遮ってジグザクに作られた登山道は有難い。滑りやすい軽石状の石に慎重に足を置く。高度が上がるにつれて柔らかい色合いの紅葉が見られる。

「カエンタケに注意」の看板があった。猛毒。食べると死亡率が非常に高く、汁が手に付くだけでも皮膚に炎症を起こすため触ることすら危険だそうだ。実物には出合えなかったのですがネットで調べてみた。指のような形をして赤い。なるほど綺麗なもので触れてみたくなりそうだ。

マタエに近づく頃になると強風とガスが出てきた。下山してくるグループの人「おにぎりも吹っ飛ぶ位の強風だから引き返してきた」と言っていた。

マタエの手前で風が収まるのを待ちつつ昼食をとる。ここで皆さん雨具や風よけ対策を羽織る。私もとザックの中を覗くが雨具が無い。出発前に何度も確認した積もりだったので何と云うことだ。でも無いのだ。後悔しても仕方がない。あとはたっぷり蓄えた皮下脂肪に頼るのみ。何があっても自己責任だ。

マタエは風の通り道で強風が吹き荒れていた。でも今回は台風の影響ではないようなので前回よりは幾分弱いようにも感じた。西峰登山口「ここを登ります。しっかりと3点確保して」リーダーの声に身が引き締まる。順番待ちのとき、カップを着ていない私に声をかけてくれたYさん。防寒着を貸してくださったTさん。とてもありがたかった。

直立して見える長い岩。ここを登れば何とかかなりそうで怖い気持ちを、前進モードに切替え

て慎重に岩と鎖をつかむ。注意深く声かけしてくださったリーダーのアドバイスは心強かった。濡れて滑り易い岩。粘土質の登山道。わずかなミスで転落しそうな難所が次々と現われる。幸いにもガスに覆われていて周囲が見えないぶん恐怖感はなかった。巨大な火口も見えなかったが一度登頂をしているMさんの解説を聞きながら想像した。

できれば晴れた日にもう一度歩いてみたい。厳しい岩場は、しっかりとした手がかり、足がかりのある優しい岩場でもあった。

過去2回は台風の影響で断念した。3度目にして由布岳の2つの山頂に立てた。その日の夜の宿でわいわいと今日の山のできごとを話しながら作った蒸し料理とビールの味は格別だった。

#### 【鶴見岳】

前日の疲れはあったがさわやかな朝の空気に元気が出る。「一気登山口」の看板から歩き始める。厳しそうな名前に驚いたが、私たちは途中から別の一般道を歩くのだらうなと思っていたがどこまで行っても「一気登山道」の看板があり、そうだったのかと納得した。ここもジグザグの道が作られておりほとんどが足に優しい登山道だったが標高が上がるにつれて息が上がる。お昼過ぎ鶴見岳山頂に到着。360度の展望・・・のはずが一面ガスの世界。下山前には一瞬だけガスが消えて昨日登った由布岳の姿が見られて感動した。

15人での山行は苦しい時、危なそうな時、皆さんのパワーに支えられているという安心感に包まれていた。

## ■学習会終了山行（大台ヶ原・大普賢岳）

●日 程：10月19日(土)～20日(日)

●参加者：L砂川(延) SL和田 阿部 泉 岡田 兼澤 黒本 平野

●行動記録：

(19日) JR姫路駅南口6:00 発—JR加古川駅北口6:45 発—大台ヶ原ビジターセンター(10:40 着・見学・昼食)12:30 発～日出ヶ岳(13:20 着)13:30 発～正木峠(14:00 着)14:05 発～尾鷲辻(14:20 着)14:30 発～大台ヶ原ビジターセンター(15:30 着)15:35 発—上北山温泉(17:00 着)17:45 発—和佐又ヒュッテ(18:30 着・泊)

(20日) 和佐又ヒュッテ5:40 発～和佐又コル(6:10 着)6:15 発～釜の窟(7:10 着)7:15 発～日本岳のコル(7:38 着)7:42 発～大普賢岳(9:20 着)10:00 発～日本岳のコル(11:55 着)12:03 発～釜の窟(12:23 着)12:33 発～和佐又のコル(13:05 着)13:10 発～和佐又ヒュッテ(13:24 着)14:10 発—杉の湯(15:00 着)16:00 発—JR加古川駅北口(19:55 着)

### ◆雨もまた良し山歩き

岡田

前日の予報では、朝は雨。自転車で集合場所まで行くのに、合羽を着ないと・・・カバンにカバーかけないと・・・と思いつつ夢の中へ。朝、目が覚めると雨は止んでいた。

姫路駅、別所、加古川駅を經由して全員を乗せ、砂川号は大台ヶ原をめざし気持ちよく走っていく。ふと車窓左手に大きな虹が見えた。雨上がりの空にくっきりと。いいことありそう。

大台ヶ原の駐車場に到着した時には、雨が降っていた。雨は勢いを増し、雷まで鳴り出した。出発は見合わせ、車の中でわいわい昼食。道の駅で購入した柿の葉寿司といちじくサンド、そして兼澤さん持参のリンゴを頂き、おいしく楽しいひとときを過ごしているうちに雨は小降り

になってきた。

会長の「日出ヶ岳まで行きますか」の言葉に、やったと思った。合羽を着こみ、手ぶらの山歩きは心も軽く、川状態になった登山道を歩くのも ぴちぴちちゃぶちやぶ らんらんらん♪な気分。少し紅葉もしていた。ブナや雑木がきれい。

日出ヶ岳山頂では雨が止み、ピストンの予定を変更して、正木ヶ原経由で下りた。大台ヶ原の有名な景色、立ち枯れの木、20年くらい前に歩いたはずだが、こんなにきれいに階段が整備されていたのかな、覚えていない。駐車場に着いた頃には、合羽はほぼ乾いていた。気持ちのいい山歩きができた。

和佐又ヒュッテに向かう途中、素晴らしい雲海に感動。これも雨が降ったおかげ。そして、立ち寄った温泉では、汗か雨で濡れた体には最高のご褒美！いいお湯に心も体も癒された。和佐又ヒュッテへの道は細く、暗く、おまけに霧で真っ白。さぞ運転しにくかっただろう。

宿に着くと、まず夕食。胡麻豆腐や具たくさんのお味噌の鍋がとてもおいしく、温まった。部屋は、私たちだけの貸切で広々として、シーツもきれいし、一人1枚の布団がうれしい。(夏山山行の時は1枚に2人だったから) 消灯8時すぎ。布団に入るとすぐに眠ってしまった。

和佐又ヒュッテは11月30日で閉館。来年8月には解体されるそうだ。再開されることを願う。帰りにお世話になったお姉さんと記念撮影をした。フェイスブック、和佐又ヒュッテ&キャンプ場に11月下旬掲載予定。

2日目、夜降っていた雨は止んでいた。初めての太普賢岳である。薄暗い景色がだんだん明るくなり少し靄がかかって幻想的であるかと思ったら、後方から日がさしてきて朝日を感じた。太普賢岳には、自然の岩が削れてできた多くの窟があったり、きれいな苔があったり、山頂では、真っ白だった霧がすーっと晴れてきれいにまわりの山が見えたり、また兼澤さんのリンゴを頂いたり(おいしかった\*^^\*)、感動がたくさんあった。中でも、今回は学習会の修了山行である、下りで急な階段や鎖を使って、シュリングを実際に使いろいろな教えていただいたのが勉強になり楽しかった。

帰路、お風呂に寄ったり、柿の葉寿司を買ったり、車中も最後まで楽しく寝る間がなかったくらい。雨女・晴れ女&男のパワー半々の楽しい2日間だった。

\*会長、運転しにくい暗い道や渋滞、レンタカーの時間の心配などもありながらの車の運転や山行を安全に連れて行っていただきありがとうございました。

\*同行の皆さま、とても楽しい山行でした。一緒に行けてよかったです。ありがとうございました。またご一緒してくださいね。



## ◆学習会終了山行2日間の山行～4つの幸運～

兼澤

10月19日(土)天候回復が見込まれていたものの、大台ヶ原(日出ヶ岳)のある奈良県吉野郡上北山村には、午前中、洪水警報(土砂災害)・大雨注意報・雷注意報が発令されていた。

往路は途中まで、ほぼ曇天であったが、山道にさしかかると霧となり、雨模様が変わった。

大台ヶ原ビジターセンターに到着時には、雨はどしゃ降りとなり、雷を伴った。日出ヶ岳

登山の中止を念頭におきながら、車中での昼食となった。

### 【一つ目の幸運】

2時間弱後、幸いにも、雨は小降りとなり、雷も治まってきた。「せめて、日出ヶ岳のピストンだけでもしょうか」とのリーダーの言葉に、メンバーの眼が輝いた!!!

だが、想像通り、日出ヶ岳山頂は霧で真っ白だった、近くの景色さえ霞んで見える状態であった。

青いお空の底ふかく、海の小石のそのように、夜がくるまで沈んでいる、昼のお星は眼にみえぬ。見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。

眼をつぶって想像した～あすこに富士山、その南側に御嶽山、そして熊野灘。反対方向には、大峯の山々、明日登る大普賢岳はあのあたり!??



眼を開くと、やっぱり何も“見えぬ”でも、“見えぬ山々もあすこにあるんだ”雨は小康状態になった。「正木ヶ原」をめざし、さらに、「尾鷲の辻」まで足を延ばすことになった。そこで、時間の関係もあり、大台ヶ原ビジターセンターに引き返した。到着は計画時刻の15時30分だった。大台ヶ原が60年以上前の台風の被害を未だに回復できない現実を目にした。壊された自然の回復には時間がかかることを実感した。



10月20日(日)5時45分、ヘッドランプはどうでしょうか?と迷う明るさの中、和佐又ヒュッテを出発した。

昨日と同様で、霧が周囲の景色をさえぎった。足元の落ち葉やキノコを楽しみながら登った。

時々、霧が切れた。その時には、紅葉した木々や、谷の深い山が顔を覗かした。その都度に、“オオ～!”と声が漏れた。はしご、クサリ、金属製の橋などを利用しながら登った。でも、大峯にかかわる人々が大切にしている「生態系の保護」はどうなる?と思いつつ・・・やがて、

大普賢岳の頂上にたどり着いた。

### 【2つ目の幸運】

大普賢岳の頂上には、霧はなかった。風は冷たかったが、岩陰は暖かだった。大台の山々、大峯の山々、四方八方の山々が笑顔で私たちを迎えてくれた。大峰山系の山々には何度か来ているが、これほどの眺望絶佳は初めてだった。しあわせなひとときであった。

### 【3つ目の幸運】

入会時の終了山行は所用で参加できなかったもので、今回参加させていただいた。素晴らしいリーダー、良きメンバーに囲まれてこの山行は楽しい2日間であった。

### 【4つ目の幸運】

山行初日の午前中まで、寒冷前線通過で荒天、下山後の翌日は、台風20号の接近で荒天。私たちが山に入っている2日間だけの好天。ほんとうに恵まれた山行だった。

## ■雨飾山

● 日程：10月20日(日)～22日(火)

● 参加者：L 松下 SL 尾内 瀧原

● 行動記録：

(20日) JR 大阪 8:10 発—JR 金沢 11:25 着) 11:56 発—JR 糸魚川(12:45 着) 13:13 発—中土(14:09 着) 14:30 発—小谷温泉山田旅館(14:57 着) 15:25 発～鎌池(16:25 着) 16:35 発～山田旅館(17:15 着・泊)

(21日) 山田旅館(着) 5:28 発～雨飾高原登山口(5:38 着) 5:52 発～広河原(6:06 着) 発～ブナ平(6:48 着) 7:00 発～荒菅沢(7:38 着) 8:00 発～ハシゴ(9:00 着) 9:10 発～笹平分岐(9:20 着) 発～雨飾山頂(9:55 着) 10:10 発～笹平小丘(10:20 着) 10:45 発～梶山分岐(11:02 着) 発～中の池(12:00 着) 発～一ぶく処(12:40 着) 12:50 発～難所のぞき(着)～梶山薬師登山口(14:23 着) 14:28 発～雨飾山荘(14:35 着・泊)

(22日) 雨飾山荘 9:45 発—糸魚川(10:28 着・散策)～JR 糸魚川駅 12:48 発—JR 金沢(13:39 着) 13:54 発—JR 新大阪(16:32 着)—JR 大阪(16:37 着)

### ◆紅葉と秘湯を満喫した雨飾山山行

瀧原

夏山の梅池から白馬岳に向かう休憩地で眺めた雨飾山は、頸城山塊の端にある百名山である。紅葉、温泉と嬉しいおまけが付いておりワクワクしていた。

～長野県小谷温泉山田旅館と鎌池～

アクセスは台風の影響もあったが、予定通り小谷温泉山田旅館に到着。江戸時代から続く由緒ある旅館で磨き抜かれた3階建ての木造には趣があり、私たちは江戸時代に作られた部屋に宿泊した。お茶を一服した後、鎌池散策に向けて出発。急なぬかるんだ山道を1時間ほど登ったところに大きな池が現れた。周囲の山は紅葉していたので、明日の雨飾山も期待できると思った。美味しいキノコを食し、温泉で体を癒やして、明日に向けて準備をした。

～錦秋の雨飾山～

五時半、登山口まで送ってもらい、“今が紅葉の見頃”という宿の人の言葉に嬉々として出発。木道を少し下ってから左側の取り付きを登る。急登の木の根道を1時間歩いてブナ平に着くと、ブナ林の葉が柔らかい日差しに輝き金色の世界に飛び込んだようだった。だんだんと視界が開けてきて荒菅沢に到着。ザーザーと音を立てて勢いよく流れて居る沢を渡渉して朝のおにぎりを食べることにした。周囲は切り立った岩壁の山でその山肌一面に鮮やかな赤、黄、常緑樹の緑がまざり、三色のグラデーションが美しい。左上方のひときわ切り立った岩壁に布団菱が見えた。布団菱は鋭く空に突き刺すようにとがった岩山に菱の形が切り込まれている。



いつまでも眺めていたい見応えのある紅葉だが、午後からのお天気も気になるのでそうもいかない。

そこからも急登が続き、一足一足高度を稼いでいった。1時間ほど登ると岩場の手前に着いた。



岩や梯子が続くのでストックをしまい三点確保で登っていった。20分ほど登るとやっと笹平分岐の稜線に出た。ここからは広く一面に笹が茂るなだらかな起伏の道で展望もいいはずだが、この頃にはガスが出てきてせつかくの視界がふさがれてしまっている。しばらく歩くと雨飾山の山頂が現れ、最後の頂上直下の急登をよじ登っていった。頂上は“猫の耳”と呼ばれている双耳峰で、まず三角点のある南峰へ行くと狭い頂上に多くの人である。残念ながら眺望はない。記念写真だけ撮って北峰へ向かったが、遮るものもなく強い風が吹いていたので石仏に手を合わせ、早々に降りていった。絶好の紅葉シーズンなのでびっくりするほどのラッシュだ。笹平手前でお昼を食べる頃ガスが晴れ、糸魚川の町から日本海、周囲の山々が見え、展望を楽しんだ。



下山は梶山分岐から雨飾温泉へ。そちらからの登山者に「中池までの道がぬかるんでいるので要注意」とアドバイスを受けていたので気を引き締めて降りていった。その言葉通り急ですごぬかるんでいる道で滑りそうだった。そこを過ぎると薬師尾根で梯子やロープもあるがまだ歩きやすかった。新潟県側の道は、とても静かな山歩きが出来る。こちらは急傾斜で変化に乏しく、展望もあまりよくない。また、先の台風の影響だろうか道も荒れている。長野県側とは道の整備状況が大きく違う。しかし深田久弥の「日本百名山」によればこちらの方が早く道が開かれたようだ。支尾根に目をやれば稜線から1本の糸のように滝が流れている。それが数本もある。この山々のお陰で糸魚川に豊かな水をもたらし、美味しいお米がとれるそうだ。登山口には薬師像が祀られていた。頂上の石仏は糸魚川の僧が持って上がったそうだ。3時間30分の緊張した下りを終え、やっと雨飾山荘に着いた。雨にも合わず無事、登頂できたことを喜び合った。

～日本海と頸城の山々と糸魚川の街～

翌朝も温泉にゆっくりとつかった後、美味しい朝ご飯に食後のコーヒーを味わいながらのんびりと周囲の山々を眺めていた。日常から離れて至福の時だ。10時頃、タクシーで糸魚川駅へ向かい、展望台へ歩いて行った。海岸沿いの静かな街だ。糸魚川と言えば大火で多くの家が焼失したが、ほぼ復興したようだ。展望台からは目の前に日本海的大海原が広がり、振り返れば雨飾山の姿や頸城山塊の山々が見え、遠くに後立山連邦の冠雪した朝日岳が眺められた。山談義に盛り上がり、楽しかった山行も終了を迎えた。山だけでなくこの地域にも親しみを覚えた。

パワフルなL・S Lのお二人に安心と元気を頂き、ゆっくりとした行程に心が満たされた山行であった。深く感謝！お世話になりありがとうございました。

## ■高御位山

●日 程：10月21日(月)

●参加者：L森本 SL須増 天野 生永 上田 小田(敏) 橋本(健) 春本

●行動記録：JR 曾根駅 8:35 発～豆崎登山口(8:45 着)8:05 発～地徳山(9:30 着)9:35 発～桶居山分岐(10:35 着)～桶居山(12:00 着)12:05 発～山神社(12:30 着)12:35 発～お好み倶楽部びぎん(13:00 着)14:00 発～JR 御着駅(14:20 着)

## ◆高御位山縦走

春本

10月21日(月) 8時30分JR曾根駅を、くもりのち雨の予報と不安を胸に出発。

駅前狭いので途中のスペースでストレッチ、2号線の歩道橋を渡り豆崎登山口から柴を刈った山道を登り、高御位山と阿弥陀墓地との分岐でリーダーが神戸新聞の切り抜き記事を見せた。高御位山遊会の高森ボランティアでの分岐標識備え付けの記事でした。

このルートは最寄り駅から近くて大平山からの縦走入り口になる、経塚古墳、中所分岐、地徳山へと進み慣れ親しんだ百間岩を今回は登る。

鷹ノ巣山から桶居山分岐まで約30分、日差しこそないものの、どんより曇りで時折さわやかな風が吹いて山行は楽でした。

ここからは桶居山が見えなくなる尾根を縦走です。人もまばらになり1ペアのみで結構足にくるダウンヒル、今日の靴をハイカットにして正解でした。それでも左足首を少しひねった感じで2年前にローカットブーツで登破したとき無かったロープ(高御位山遊会メンバー設置)の世話になります。



桶居山容が見えたところで集合写真を撮り、岩肌を時折三点支持で12時に狭い頂上に着く。予定より30分遅れで今回のお好み焼き「びぎん」に確認したところ14時までと言われコースを変更し最短下山ルートとなる、地元上田氏先導でかなりの急な岩場を30分で降りきった。桶居山の南面登山道では上り口でいきなりロープあり杖ありです。

12時30分\*山神社でストレッチ、13時「びぎん」到着。計画コースだと1時間かかるころだが諸事情(早くお好み食べたい、天気が心配、これ以上山歩きはつらい)と言うことで最短下山ルートで遅れを挽回した。

今回定休日の関係で変更になったお好み焼き屋ですが、かなりのレベルで味、量、コスパ、店主のこだわりソースの話等でメンバー一同満足。

旧山陽道をぶらぶら歩き予定時刻の14時20分に御着駅到着、家に着いた15時半雨が降りだした。

\*山神社；明治初年創建の大山祇神を祭神とする、むかし桶居山の姿の美しさから山全体を神体山とみなした人々が信仰を寄せたことに由来する。

## ■土曜トレ・千町小屋合宿

- 日程：10月26日(土)～27日(日)
- 参加者：1GL 田中(重) 阿部 泉 島谷 福田(正) 村上  
2GL 和田 香川 川上 田中(由) 中村 春本 山下(純)  
3GL 佐々木 大谷 切貫 黒本 森本  
4GL 田中(美) 上田 垣内 砂川(延) 田羅間 橋本(健)



## ●行動記録：

(26日) 自家用車組・千町小屋(10:45着・清掃、薪運び) バス組・千町小屋(11:45着) 昼食～テーピング講習(12:15～13:00) ストレッチ 13:20 発～斜面でロープワーク(14:00着) 14:20 発～笠杉山山頂(14:40着) 14:50 発～千町小屋(15:55着・炊飯・夕食) テーピング講習(18:00～19:30)

(27日) 千町小屋6:00 発～くじら岩(7:05着) ～山上庭園(7:40着) 7:45 発～千町小屋(8:40着・朝食) 三角巾講習(10:15～11:00) ロープワーク(11:15～12:00) 清掃・千町小屋13:10 発

## ◆千町小屋合宿

## 切貫

一度は行ってみたかった千町小屋へ行ってきました。

標高1,032メートルの笠杉山～登れるか心配しているところへ感想文の任務が～ダブルパンチです。(泣く)

26日4ヶ所の集合場所からスムーズに出発～千町小屋へ着き昼食を済ませた後～テーピングの座学(実習)(講師～TさんとWさん)テーピングのモニター～外反母趾の私もテーピングを巻いて貰い山へ登りました。笠杉山に登る途中～ロープワークの実技(2班に分かれて)下山後～夕食にカレーを食べた後、テーピングの座学テーピングのモニターの方の感想発表です。外反母趾に巻いて貰って登



って足～違和感が無く疲れ知らずでした。その後はテーピングの巻き方のユーチューブを見ての勉強。20時消灯～スヤスヤ気持ち良い寝息が聞こえます。そうこうすると大きな鼾が～女性も負けていない鼾の合唱(笑い)。山小屋では早く寝た者勝ちです。

27日5時起床～6時山へ出発～下山後朝食を済まして三角巾の座学～三角巾のたたみ方～結び方～解き方～足の捻挫の固定包帯ロープワークの実技八の字結び～使い終えたロープを引き上げる方法等の勉強昼食の棒ラーメンを食べた後は来た時よりも綺麗に掃除をして帰宅。

久しぶりの三角巾の使い方～ロープワーク～テーピング大変勉強になりました。

## ■高森ボランティア活動

●日 程：10月19日(土)

●参加者：内海 大谷 澤田(律) 須増 荘所 山本(正)

●時 間：9:00～10:40

## ◆活動報告

## 荘所

本日は、豆崎登山口から高御位山への縦走路にある経塚古墳までの登山道の草刈り、枝払いを実施した。

夏場はボランティア活動中止していたので、特に登山道入り口の草は良く伸びていた。